

福島の文化財

県指定史跡

石造阿弥陀三尊来迎供養塔

所在地 岩瀬郡岩瀬村大字畠田

岩瀬郡岩瀬村長命寺内に十数基の供養塔があり、その中に石造阿弥陀三尊來迎供養塔がある。この供養塔は熔結凝灰岩で舟形状につくられていて、塔の高さは百七十四センチメートル、幅は下部で九十三・五センチメートル、上部になるにしたがつてせばめ周縁を画して内面をほりくぼめ、そこには三尊を浮き彫りにしている。

石塔の高さは百七十四センチメートル、幅は下部で九十三・五センチメートル、上部になるにしたがつてせばめ周縁を画して内面をほりくぼめ、そこには三尊を浮き彫りにしている。

中央上部に來迎印（上品下生印）の阿弥陀如来が蓮華座上に立ち、下方に觀音、勢至の両菩薩がやや向き合うよう侍す。觀音は膝をやや前方に屈し両手で蓮台を捧げ持つており、勢至は合掌の姿をとっている。

周縁の右側に「弘長二年壬戌四月日敬白」と宋朝風の筆で陰刻されているが、この種の石造來迎像としてはかなり古い。国指定史跡の下鳥渡供養石

塔（福島市）よりわずか四年後（一二六二年）の彫造で初期の例に属するものとして貴重である。

岩瀬郡は二階堂氏本貫の地であり、下鳥渡も須賀川二階堂氏の支配を受けたところである。両地に同様の供養塔があることは阿弥陀來迎思想の流布、信仰のありかたなどからみても興味深い。

（所有者 畠田部落）

